

オランダ連携プロジェクト「Game Changer ～パラスポーツで社会を変える～」 平成30年度実績報告

1 実施事業

事業名	来日プログラム 健常者と障害者をつなぐ指導者の役割
日時	平成30年6月28日（木）午前9時から午後6時まで
場所	保谷柳沢児童館（ワークショップ）、田無特別支援学校（コーフボール体験）
講師	リタ・ファン・ドリエル氏（オランダパラリンピック委員会事務局長） マヨライン・デ・ブーア氏（スポーツコンサルタント） ドルフ・ナイブルック氏（オランダコーフボール協会）
概要	<p>◆ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツにおけるルールや用具の工夫 ・「Sports MEE」（障害者のスポーツや運動への参加をサポートするスポーツカウンセリング組織）の紹介 ・「障害者を手助けするのではなく、一人の人間として接し、相手の可能性に目を向け、信頼関係を築く」が大切 <p>◆コーフボール特別授業</p> <p>「ルールがすべてを決めるわけではない。成功体験と楽しむ」ことが大切</p> <p>◆交流事業</p> <p>児童館・学童クラブを利用する子どもたちが、誰もが楽しめる遊びを体験</p>
	
参加人数	大人 62人（児童館・学童クラブ、地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ推進委員、小・中学校、スポーツ推進審議会、放課後等デイサービス） 生徒 12人（都立田無特別支援学校） 子ども 50人（保谷柳沢児童館、学童クラブ、放課後等デイサービス）
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツに限らず、スポーツのルールや方法を工夫することで、年齢や男女差なども気にせず楽しめると思った。 ・人は一人ひとり違うので、話をよく聞き、本人の希望や苦手なことを知った上で、その子のニーズに合わせて工夫していきたい。 ・障害者の話を聞くことや体験を通してコミュニケーションを図り、健常者との垣根を越える橋渡しができればと感じた。

事業名	第 18 回西東京市民まつり スポーツ振興課ブース		
日時	平成 30 年 11 月 10 日（土）午前 9 時から午後 3 時 30 分まで		
場所	西東京いこいの森公園		
概要	コーフボールのシュート体験		
参加人数	約 600 人	アンケート回答数	215 人
参加者の声	初めて知ったスポーツだった。		



事業名	ともに生きる！まちづくり キックオフ・フェス 東京 2020 大会コーナー		
日時	平成 30 年 12 月 8 日（土）午前 10 時から午後 3 時まで		
場所	西東京市民会館		
概要	共生社会の実現を考えるためのきっかけを考えるイベントの会場内にて、ボッチャの体験を行った。		
参加人数	約 100 人	アンケート回答数	63 人
参加者の声	ボッチャがもっと身近な場所でできると良い。		



事業名	スポーツサポーター育成セミナー あなたもスポーツのバイプレーヤー		
日時	平成 31 年 2 月 2 日（土）、23 日（土）、3 月 2 日（土）午後 2 時から午後 5 時まで		
場所	きらっと		
目的	障害のある人もない人も誰もが一緒に楽しみ、交流ができるスポーツ環境のサポーターとして、積極的に活躍するための知識や心づかいを身につける。		
講師	澤江幸則准教授（筑波大学体育系）（第 1 回～第 3 回） 松原豊教授（筑波大学体育系）（第 1 回・第 2 回） 杉山文乃助教授（筑波大学体育系）（第 2 回） リタ・ファン・ドリエル氏（オランダパラリンピック委員会事務局長）（第 1 回） マヨライン・デ・ブーア氏（オランダ人スポーツコンサルタント）（第 1 回）		
概要	◆基礎講座「共生社会におけるスポーツの力」 ・「スポーツの場を共有し、感情を共有する」こと自体がボランティア ・誰もが公平にスポーツができるようになるための障害者への合理的な配慮や支援 ・オランダにおける、障害者と一緒に運動の可能性を考える対話 ◆障害者へのサポートとパラスポーツ実習 ・車いす ・シットイングバレーボールの体験 ・肢体不自由の人と一緒にバレーボールをするための工夫 ◆ワークショップ「クリエイティブにやってみよう！」 ・インクルーシブするために必要なことは「アダプテッド」と「違いを知る」こと		



参加人数	延べ 50 人
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・人のためだけではなく、自分が楽しみながら一緒にできることを考えたい。 ・肢体不自由の方に対して様々な工夫をしてスポーツは楽しいことを感じてほしい。

事業名	来日プログラム Game changer の活躍を目指して
日時	平成 31 年 2 月 5 日 (火) 午前 9 時から午後 6 時まで
場所	向台小学校 (午前)、西原総合教育施設 にしはらスポーツクラブ体育館 (午後)
講師	<p>リタ・ファン・ドリエル氏 (オランダ NOC * NSF)</p> <p>マヨライン・デ・ブーア氏 (スポーツコンサルタント)</p> <p>マリスカ・バイエル選手 (車いすバスケットボール)</p> <p>ポー・クラーメル選手 (車いすバスケットボール)</p>
概要	<p>◆パラアスリート特別授業 「オランダ代表パラアスリートから学ぼう」</p> <p>・オランダ代表選手 (リオパラリンピック銅メダル、2018 年世界選手権優勝) から、車いすバスケットボールとの出会いで、「自分に自信がついて成長できた。」「スポーツのおかげで楽しい日々である。」という講演</p> <p>・身体の一部が不自由であっても、道具を工夫したり、ルールを変えることで、いろいろな形の卓球を楽しめる活動「インクルーシブアクティビティ」の体験</p> <p>◆パラスポーツと共生社会体験事業</p> <p>「Be Creative 創造性を発揮」して、誰もが参加できるスポーツやサポートの方法</p> <p>◆オランダ方式！障害者との向き合い方ワークショップ</p> <p>障害者と様々なコミュニケーションを通して、障害者の希望や可能性をヒアリングする方法の見学と実践</p>
	  
参加人数	<p>午前：159 人 (向台小学校 4 年生)</p> <p>午後：44 人 (市民、福祉関係、地域スポーツクラブ、体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ審議会、放課後等デイサービス、児童館、指定管理者)</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しむことが第一であり、臨機応変に工夫して、スポーツを創造していくことも大切だと思った。 ・相手が何を求めているのかを知ったり、聞き出すことが楽しかった。

事業名	パラスポ★チャレンジ（予定）		
日時	平成31年3月21日（木・祝）午前11時から午後4時30分まで		
場所	きらっと		
概要	◆コーフボールとボッチャの体験 ◆パラアスリートトークショー		
参加人数		アンケート回答数	
参加者の声			

事業名	オランダ連携プロジェクトPR展示		
概要	オランダ連携プロジェクトを紹介するパネルの展示とアンケート調査		
実施日	平成30年10月10日（土）西東京市民スポーツまつり		
イベント	平成30年12月23日（日）西東京市リレーマラソン		
アンケート回答数	西東京市民スポーツまつり	71人	
	西東京市リレーマラソン	51人	
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックをきっかけにプロジェクトが広がってほしい。 ・障害のない人とある人が一緒にスポーツする機会が身近にないので、小学生時代から交流の機会があると良いと思う。 ・他国の様々な取り組みを知ることには大変参考になると思う。日本で応用できる点は取り入れる一方で、日本の良い点は参考にしてもらい、輪が広がれば良い。 		

2 プロジェクト2年目の意識調査結果（平成30年度の主な事業にてアンケート調査を実施）

回答：400人

性別：男性 46.5%、女性 53.5%

年齢層：10代以下 40%、20代 3.6%、30代 16.9%、40代 16.4%、
50代 8.7%、60代 4.4%、70代 5.1%、80代以上 4.9%

障害者スポーツの認知度		下段（ ）内は昨年度の数値
参加したことがある	22.9% (19.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「参加したことがある」と回答した割合が増加 ・参加した競技のうち、ボッチャが最も多い。 (ボッチャ 46人、五人制サッカー 19人、卓球 7人、車いすバスケットボール 5人、ゴールボール 5人、シッティングバレーボール 5人、バドミントン 5人 など)
知っている	59.2% (74.2%)	
知らない	17.9% (6.4%)	
障害のない人もある人も一緒にスポーツをする場所に参加したことがあるか		
ある	25.8% (23.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度並みである。 ・一層向上させるための取組を継続する。
ない	74.2% (76.1%)	
障害のない人もある人も一緒にスポーツをするに壁を感じるか		
感じる・少し感じる	33.0% (34.8%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「壁を感じる」割合は昨年度並みであるが、わからないと回答する人が増えた。
感じない	48.1% (55.6%)	
わからない	18.9% (9.7%)	
「共生社会」「ソーシャルインクルージョン」の認知度		
知っている	26.9% (15.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「知っている」「聞いたことがある」を含めると7割を超え、認知度が大幅に上がった。 ・引き続き、事業や広報活動等において、キーワードの意味や、目指す社会像を発信していく。
聞いたことがある	47.7% (24.1%)	
わからない	25.4% (60.4%)	
東京パラリンピックを観戦したいか		
ぜひ観戦したい	25.6% (20.7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「機会があれば観戦したい」が減少した分、「ぜひ観戦したい」割合が増加した。 ・引き続き、パラスポーツの魅力発信や機運醸成に取り組む。
機会があれば観戦したい	67.0% (72.8%)	
あまり観戦したいと思わない	7.4% (6.5%)	

